

校友会誌



平成24年3月9日

発行

名古屋工学院専門学校校友会

名古屋市熱田区神宮四丁目 7-21

<http://koyukai.denpa.ac.jp/>

<第53号>

『祝・学園創立六十周年』

会長 倉田 豊行

学園創立六十周年、誠におめでとうございませう。昭和27年2月1日に、故水野恒治先生により国鉄熱田駅近くに学園が創立されて、早、六十周年を迎えました。記念行事として記念式典、校友会主催の学園祭における校友会コーナー、アマチュア無線クラブによる記念局の開設などが執り行われました。

現在、在校生は千名余り、卒業生は六万人と名実ともに西日本随一の学校となりました。学園創立六十周年を記念して新たなスローガンが発表されました。

『六十周年を迎えるにあたり』

校長 小川 明治

今の世の中、社会、日本はどうでしょうか。経済不安、政治不安、社会不安、さらに東日本大震災という未曾有の災害と、まるで戦後のようです。

これは、電波学園が創立した昭和27年当時も同様ではなかったでしょうか。

当時は、太平洋戦争が終結し、我が国主要都市の大半が、焼土と化し、その復興のつち音の中から、産業の発展のきざしが見え始めた頃でした。

軍国教育から、民主教育への転換期に

それは、『ありがとう、と言われること。電波学園』です。私の尊敬する恩師は、『ありがとうは、「奇跡の言葉」である。口に出せば、元気が出る。耳に入れば勇気がわく。希望がなければ、自分で希望を創れば良い。世界が暗ければ、自分が太陽と輝けば良い。』と訴えられました。故星野哲郎先生は、『自身の出身地の校歌で『努力の二字で、不可能の三つの文字を消していこう。』と歌われました。まだまだ世相は厳しく就職難となっておりませう。この大変な時代だからこそ『ピンチはチャンス』であると捉え、勇敢に何事にも挑戦したいものです。太陽は、自ら燃えて、他の星を照らし

あつて、次の時代を担う青少年の正しい教育は如何にあるべきかが、問われる時代でした。

そのような時代の中、学園創立者の水野恒治先生は、青少年の在り方を学園の『建学の精神』として、具体的に、世に示されたのです。

今こそ、学園の『建学の精神』のもと、今年度迎える学園創立六十周年を機会に、学園を大きく変化させるのです。

『強いものが生き残る』時代です。変化するものが生き残る』時代です。

学園は『建学の精神』を核とし、百年、二百年と、時代に先駆け変化し続け、永遠に生き続けます。

ます。ギリシャのストア派の哲学者ゼノンは『我々に舌は一つだが、耳は二つ与えてくれた。』話すことの二倍、聞くためであると。アメリカの人権の母エレノア・ルーズベルトは『人生の全権は自身にある。』と。また、ダイヤモンド(金剛石)は『不屈』を意味するギリシャ語(adamas)に由来します。辰年の本年、心新たに、「自ら燃え、人の話をよく聞き、自信をもち、不屈の精神を忘れることなく」創立百周年を目指して、昇竜のごとく邁進してください。卒業生の皆様のご健勝とご多幸、ならびに今後の益々のご活躍を祈念申し上げます。

未来に向け『ありがとう、と言われること。電波学園』という、学園のスローガンも作成いたしました。

『ありがとう』と言われることの尊さ、大切さ、喜び、誇りを感じて、常に、この『ありがとう』を胸に、私たちは、歩み続けます。

さらに、学園の大きな夢、思いを込め、『シンボルマーク』も作成しました。今、全教職員の胸に、誇り輝いております。

さあ、校友会の皆さん、『学園人』として、卒業生、在校生、教職員が一丸となり、社会のため、日本のため、世界のために、さらなる歩みを、始めようではありませんか。新しい時代の始まりです。

『僕は悟った。人は飽きる。』

情報システム科

平成13年3月卒業 徳島 学

学校を卒業して通信会社に就職した僕は、情熱を傾けたプログラマーになる夢はどこへやら。コンピュータに飽き始めていた。このままこれを一生の仕事にすることなど想像も出来なくなっていた。大学を辞め、学校に入り直してまで目指した道なのに。心機一転、ネットワーク・エンジニアを目指すことにしたが、配属希望は叶わず、あえなく挫折。

しかし、そこになんとかやりがいを見つけ、徐々に仕事を楽しくなった。三年間バリバリ働いた。そして、飽きた。僕は悟った。人は飽きる。

同じ環境に三年もいれば必ずマンネリ化する。六・三・三・四の学校制度はよくできていると妙に感心した。やりがいを感じながらも飽きてしまった僕は、自分のやりたいことが分からず、悶々として日々を過ごしていた。その瞬間は突然訪れた。「この人が今やっている仕事が見たい！」。目の前の見知らぬ男をみて僕はそう思った。師匠と慕うことになるアライさんだ。

なにも無いところに新しくサービスを作り出す仕事。これだ！これがやりたい！僕がプログラマーを目指した理由はこれだったんじゃないか。胸に熱いものが

が宿った。

異動希望が叶い、仕事をするようになった。ワクワクした。思い描いた通りの仕事だ。携帯電話を使ってワンタイムパスワードを発行する認証サービスの開発に取り組んだ。まだ類似サービスは全く新規性が高い。毎日毎日帰宅は深夜だけれど、楽しくてしかたなかった。

しかし、幸運は長くは続かない。一年後、アライさんは突如異動に。師匠を失い途方に暮れた時、「私淑」という言葉に出会い気持ちを立て直した。一年間見てきた背中、もうここにはない背中を追いつけ、もがき続ける日々が始まった。

それから七年。システム開発の仕事に情熱を持ち続けている。三年で飽きることはなかった。昨春、課長に抜擢された。本物の情熱を得られた結果だろう。それは、決して簡単に見つかったわけではない。大学を辞めてまで選んだプログラマーの道就職とともに一度は捨て、再び出会ってやっと本物にすることができた。ずいぶん遠回りだ。これからは順風満帆に・・・とはならない。なぜかまた振り出しに戻った。課長になって仕事の内容が変わった。やりがいはあるが、苦悩する日々が続いている。先のこととはわからない。いつかまた「これだ！」と思える出会いがあるだろう。その瞬間を楽しみに、いまを頑張っていると思う。

『情けは人のためならず…とは』

産業技術学科 坂下 正義

先日テレビ番組で「情けは人のためならず」のことわざを「情けは人のためではなく、いつか巡って自分に返ってくるので、誰にでも親切にしておいた方がよい」という意味だと、正確に理解していない人が意外に多いことを取り上げていた。という私も若い頃、この意味を「情けをかけることは、結局はその人のためにならないのですべきでない」という意味だと間違って理解していた一人なのだ。

違っていたと分かった時も、先人の教えということでは理解は出来るが本当にそうなのかなと疑っていた。しかし、この正しい意味を私は6年前に痛感することができた。

その年に我が家は飼っていた熱帯魚のエアーポンプから出火し、たまたま2匹の飼犬も含め家族で旅行中だったため無事だったものの、購入後7年しかたっておらずローンの支払いも元金がほぼ残ったままの我が家を失い、住む場所が無くなってしまった。本当に途方に暮れる状況だった。

この窮地から救われたのは、火災を起す前の1年間、私と妻が地区の班長の役を苦労しながらも務めたからであ

勿論、進んでやりたくは無かったが、なかなか引受ける人がおらず何とかやって貰えないかとのことであったので、人助けのつもりで引受けた。

しかし、引受けたものの回報などを配布する世帯が23軒もあり、配るだけでも1時間以上掛かるし、区費や募金を集めるとなると不在の所には何度も足を運ばねばならず大変な労力であった。

また色々な行事で折角の休日が潰れてしまうことも多く、他にも田舎ならではの古い仕来たりなどが分からないために、地元の人から文句を言われるなど精神的にも骨が折れることばかりであった。ただこの苦労をしたからこそ周りの人も私のために尽くしてくれた。

地元の方々は町内を走り回り、使っていない家屋と更の中に残っていた家財道具も自由に使って良いと言ってくれる人を探しだして来てくれたのである。本当にありがたかった。

役を頼まれた時に無下に断らず、それなりに一生懸命やっておいて本当に良かったと思った。

また「情けは自分のためになる」こともしっかりと理解することが出来た。



平成二十二年 度

# 校友会事業経過報告

年月日 事業内容

22・4・2 校友会メールマガジン

【かもめメールNo.21】配信

22・6・4 校友会常任役員会 開催

22・6・26 校友会支部役員会 開催

22・7・13 卒業生による

在校生への講話  
笹岡 寛氏

(H15年情報総合学科卒)

22・7・31 校友会石川支部総会 開催

22・10・7 校友会常任役員会 開催

22・10・15 校友会メールマガジン

【かもめメールNo.22】配信

22・10・15 校友会奨学生に奨学金貸与

22・11・19 卒業生による

在校生への講話  
泉 佳孝氏

(H14年情報システム科卒)

22・12・2 校友会常任役員会 開催

22・12・7 校友会奨学生に奨学金貸与

23・1・5 校友会メールマガジン

【かもめメールNo.23】配信

22・11・19 卒業生による

在校生への講話  
荒川 雅彦氏

(S60年テレビ工学科卒)

23・2・25 校友会東京支部総会 開催

功労賞 新川 美浩氏

23・3・2 校友会常任役員会 開催

23・2・26 校友会沖繩支部総会 開催

23・3・7 校友会賞受賞者決定・授与

23・3・7 校友会誌『かもめ』

23・3・18 校友会誌『かもめ』

23・4・4 卒業生による

(1262通発送)

在校生への講話  
脇阪 寿之氏

(H2年情報処理工学科卒)

## 各支部長

### および支部連絡先

▽東京支部長 板屋越 一機

平成4年 電子工学研究科卒業

支部担当 池戸 博行

▽大阪支部長 田邊 和哉

昭和47年第一部電子計算機科卒業

支部担当 荒木 俊行

▽富山支部長 中島 光憲

昭和49年第一部テレビ技術科卒業

支部担当 村崎 博樹

▽石川支部長 坂本 守

昭和52年第一部電子工学科卒業

支部担当 石黒 誠

▽福井支部長 山崎 利治

昭和40年第一部電気通信科卒業

(活動休止中)

支部担当 松岡 昇

▽三重支部長 瀬野 喜久

平成3年情報処理工学科卒業

支部担当 森下 啓司

▽四国支部長 松浦 正昭

昭和34年第一本科学卒業

支部担当 高須 真人

▽沖縄支部長 上原 盛善

昭和49年第一部電波通信研究科卒業

支部担当 堀内 豊

☆支部担当連絡先

名古屋工学院専門学校

名古屋支部担当者

名古屋市中熱田区

神宮四丁目7-21

電話 052-681-1311(代)

## 二十九期校友会常任役員

会長	倉田 豊行
副会長	池戸 博行
副会長	岩井 敬典
書記	鈴木 一司
會計	松橋 卓也
幹事長	坂田 和義
幹事	村岡 好久
幹事	井東 秀樹
幹事	堀内 豊
幹事	根岸 雅巳
幹事	平岩 清
幹事	井上 照興
幹事	栗田 孝義
幹事	石黒 誠
幹事	松岡 昇
幹事	神谷 裕之
會計監査	田中 和彦
會計監査	神谷 公司
相談役	小川 明治
参与	小川 孝

平成22年度 校友会収支決算書（一般会計の部）

収入の部 合計金額 24,094,810 円  
 支出の部 合計金額 24,094,810 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	22,605,950	会誌発行費	258,537
校友会活動費	1,484,000	支部結成維持費	758,100
預金利息	4,860	講演会費	48,000
		援助費	30,000
		慶弔費	16,149
		備品消耗品費	0
		校友会賞費	71,190
		功労賞費	31,663
		会議費	0
		会長交際費	24,094
		予備費	0
		次年度繰越金	22,857,077
合計	24,094,810	合計	24,094,810

平成22年度 校友会収支決算書（特別会計の部）

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 31,564,578 円  
 支出の部 合計金額 31,564,578 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	2,301,710	今年度貸付金	1,113,000
奨学金返金	585,000	貸付繰越金	20,773,000
一般会計から	0	通信費	0
預金利息	4,868	次年度繰越金	1,778,578
貸付繰越金	20,773,000	奨学基金	7,900,000
奨学基金	7,900,000		
合計	31,564,578	合計	31,564,578

# 学園あれこれ 二〇二二

時の流れはあっという間。

時代の波に流されないようにしつかり前を見て進もう。

▼今年の卒業生が生まれる少し前の昭和時代の後期、映像音響分野の石黒誠先生は、すでに本校のテレビ工学科に在籍し、ヤンチャをしていた。

それから四半世紀もすぎ、年輪を重ね、50歳を迎えた。当時担任の深田先生も健在で、同窓会を兼ねてゴルフ大会を挙げた。しかしその日は大雨で、スコアも散々だったとか。それを雨のせいにしたのは中年親父の言い訳だ。「喝！」

気持ちにはプロ石川遼と同じ年齢に戻っても、体は正直だった。

▼そんな折、電子デジタル分野の伊藤史貴先生が手首を骨折してしまった。

爪先立ちで腰をかかめたら、バランスを崩し、床についた右手首がポキッ。体育祭での担任参加競技には出られない。そこでピンチランナーを買って出たのが池戸先生だ。

でも大丈夫か？彼はここ何年も、いや何十年も走ったことがないのではないか。案の定スタートからふらつき出した。頭の上に乗せたバトン代わりのボールがゆれている。

本人はボールを渡したつもりが、次のランナーに渡っていなかった。

結果はさておき、よく頑張った。

▼ところでこの競技、頭の上においたボールを次のランナーに渡すのだが、情報学科の松本先生は、このザルが頭にしっかりと納まらないのでスタート前から四苦八苦。が、走り出したら速かった。

変だ、何かある。いまだに疑惑の目に向けられている。

▼最近の情報メディアといえば、スマホとタブレット。いろいろ問題があるようだが、所謂みいくん持っている。

疑惑の松本先生所属の情報学科はさすがに所持率No.1。まずは、アンドロイド―長谷川先生。スマホだけでは物足りず、タブレットも購入。正月休みには3台目のタブレット。長谷川家の大蔵省

(現 財務省)の寛容さには敬服。

故ジョブズ氏を崇拜してやまないのがApple。ユーザの舟橋先生。いまやAppleのエバンジェリストになっている。神谷先生までもiPhone ユーザにして

しまった。しかし神谷先生の太い指を見たら学生達からは、フリック入力は無理だろうと密かに話題にのぼっている。

長谷川先生と同じくアンドロイドのスマホを持っているのが松本先生。

プライベートではイクメンを気取っているが、奥様にしてみれば、1歳の息子より、こっちの方がよっぽど手がかかる。イクメンの後始末に手を焼いている。

四方八方をスマホで囲まれているのにも関わらず、ガラケー一筋なのが渡辺先生。年末のボウリング大会では230点でダントツの優勝。

ボールを転がすのには自信をお持ちのようだが、日頃は、奥様の手のひらで転がされている。

▼学生の成績を管理する怖い所、教務課の栗田先生が「おじいちゃん」になった。「携帯の待ち受けを見せて下さい」というと、嬉しそうに見せてくれるという。わざわざ他人様のお孫さんを見たいとは思わないが、「鬼の栗田」が「仏の栗さん」に代わる瞬間が見られるはずだ。

▼就職活動でお世話になるキャリアセンターの松末先生のケータイはいまだにアンテナがついたムーバである。

▼こちらは卓球部顧問の小林先生。顧問の引退を控え、最後の全国大会へ学生を引率して意気揚々と、まっ先に新幹線に乗り込んだ。

ところが、東京につく頃から体調に

異変がおこり遂にダウン。インフルエンザの疑いありとかで、試合会場へは連れていってもらえず、ホテルでじっとしていたらしい。

帰りは、両脇を学生に抱えられて新幹線から降りてきた。何しに行ったの？

▼電気設備分野の新人、岩佐先生。日々の目標はK先生を追い越すことだ。仕事は勿論プライベートでも負けたくない。

この度、K先生に負けじと華々しく結婚された。同じ結婚でも、K先生は秘密裏に事を運んだが、岩佐先生は今年度の学生会発刊の文集「希望」に堂々とノロケを発表している。よくもまあここまで。

これにはK先生も負けを認めている。

▼工学院でも遂に山岳会結成か。世古先生を会長として本格的登山を目指す。

会長は山で開く弁当にこだわりを持つ。いつも弁当を写真に撮り、記録を残すのだが、撮るのは必ず食べ終わる直前。弁当を広げると空腹で写真の事はつい忘れてしまおうらしい。

世古会長の傘下には、朝倉・高須・村崎と三人の先生が名を連ねる。生まれは申、鳥、犬の干支らしい。

きびだんご下げた大将の後に続く家来たち。「桃太郎の会」と称して、野山を駆け巡っている。

◎みんなそれぞれ一生懸命。頑張っている姿は美しいが、ちよっと滑稽。

(優良可)

# オリジナル教材を作り続けて 『オリジナル教材を作り続けて』

## 『オリジナル教材を作り続けて』

老若男女問わず多くの方々に楽しんでいただいているゲーム。テレビと同様に、今では家庭のリビングにあっても普通になりました。1983年の任天堂ファミリコンコンピュータ登場により、ゲームはその立場を手に入れる事ができたわけですが、30年近くの時間は、その能力を40万倍ほど向上させ、現在のリアルな3Dゲームを実現させています。

コンピュータは能力が変化しても人の能力に進化は見られず、求められる技術は高く、多岐にわたっています。この厳しさは、ゲーム分野を学び出すのに大問題で、学生が成長する筋道を日々険しくしています。

ゲームCG分野では、この厳しさに對抗し、技術習得を実現するため、多くのオリジナル教材を準備し、授業を実現しています。それらの教材はネットワーク経由で配信されており、貸与されたノートパソコンで閲覧しながら受講し、勉強することとなります。

また、教材や資料は時間を問わず閲覧ができるため、復習や予習を自分のペースで行うことが可能となっています。教員は、毎日コツコツと作成し、昨年の調

査では6000コンテンツにも達しました。

更なる教材と、ゲームCG分野の発展を期待してください。

(トリプルクリック)

## 『スペシャリスト試験』

### 12年連続合格

情報処理技術者試験の最高ランク、スペシャリスト試験に12年連続の合格者を出しました。専門学校生の合格者は、全国でも僅か数10名程度です。合格の秘訣は、情報学科内に合格させるノウハウがあるからでしょう。また、資格試験対策クラスが、「自分もやれば合格できる」という雰囲気のため、自然と合格者が途絶えずに来たように思えます。

勿論、教員側に油断はありません。次年度以降も連続合格は続きます。

## 『MOS試験 世界学生大会で銅賞受賞』

マイクロソフトの資格、MOS試験では「世界学生大会」が開催され、今年卒業した情報処理学科の夏目さんが、Excel部門で「銅賞」を獲得しました。

## 『スマホアプリ開発開始』

今や時代は携帯電話からスマートフォンへと移り変わり、就活でも必須アイテムとなっています。それに伴い、スマホ



MOS試験 世界学生大会で銅賞を獲得した夏目さん

アプリの開発需要も増大。情報学科でも対応すべくその人材育成に乗り出しました。Android・iPhoneなどの開発環境や実機を揃え、卒業研究を中心にアプリ開発を行っています。また、体験入学でも「スマートフォンアプリ作成コース」を設置し、参加者から好評を得ています

(IT絆)

## 『ロボット2連覇・資格表彰』

今年もやりました全国専門学校ロボット競技会無線型部門で2連覇。ライバル校の挑戦を見事に撃破し、文部科学大臣賞をいただきました。

また、ロボット・CAD分野の学生は、各種資格試験にチャレンジし、本年度は、新たにデジタル技術検定、シーケンス技能検定の受験もあり、期待されています。

そのような中で、機械CAD設計科2年佐藤豊大君が、3次元CAD利用者技術者試験1級において、専門学校部門で最高得点者として表彰され、公式Webページに掲載されました。試験には、3次元CADシステムのオペレーション、読図

能力、周辺知識とその応用力を評価する問題が出されます。彼の物事に対する姿勢はたいしたものので1つの資格試験が終了すると、すぐに次の資格試験の準備をし、またコツコツと「地道な努力」を始めます。入学してから現在までにCADに関する資格を5つ、他に実務関連資格も取得、そして、ついに日本国内で最高峰といわれる技術士の一次試験に合格しました。

日本のシンクタンクと呼ばれる技術者組織の一員としての活躍を期待すると共に、同窓の学生たちにも刺激となり目標となることを祈念する次第です。

(ロボ吉)



## 『卒業生たち』

名古屋工学院専門学校ではまだ3年目の機械工学科ですが、東海工業専門学校での時代は長く、多くの卒業生が様々な分野で活躍をしています。

毎年、学園祭にはたくさん卒業生が訪ねてくれ、同窓会へのお誘いも多く貰います。あるクラスの卒業生たちは毎年同窓会の日と決め、20年以上も続いています。

同窓会が重なるとお費は正直辛い面もありますが、参加させて貰うと、昔話に花が咲くことで、私自身気持ちが若返りますし、製造業の現状や各会社の様子など

(7)

貴重な話を聞けてとても参考になります。また、後輩の為に取引先メーカーの最新機器展示会で見学と講習会を実施し、パスの手配まで自腹でやってくれ、10年にもなる卒業生もいます。本当に感謝しています。このような卒業生たちが、ちょっとした自慢です。

最後になりましたが、私たちとの付き合いを続けてくれている卒業生の皆様へ「ありがとう、そしてこれからも宜しくお願いします。」

(海坊主)

### 『電波学園創立六十周年 記念式典ビデオ撮影』

平成23年12月15日。映像・音響分野は、晴れの記念式典にて、映像撮影を行いました。「六十周年」という節目を映像で残すことは、いささか責任と申しますか、感慨ひとしおで、普段の業務とは違った空気で業務に臨みました。当日は、学生も実習の一環として同行させていた。だき彼らもまもなく卒業することもあり、普段とは違った気持ちで臨んでいました。式典が始まる前に、準備が整っていることが前提なので、入館時間前に裏門シャッター前であらかじめできることは済ませ、入館時間に一気に配置。そしてテスト。日頃、やっていることではありませんが、今回はなかなかタイトでした。式典は終始、厳かな雰囲気で行われ、理事長はじめ、ご来賓の方々をステージ中央のスクリーンに撮影された映像を見ている

と、「本当に撮影しているんだな。」という実感が湧きました。



式典は、つつがなく終了し、そこから更に、ホテルで行われるレセプションのために、即撤収。次の現場に合わせセットこの日は終日、学園の関連の業務をさせていた。ただいたわけですが、良い意味で、学園関係者の方々に本分野の教育内容がご理解いただけたのではないかと思います。今後とも何卒よろしく願います。

(愚呂氏)

### 『電子・デジタル家電分野の話題』

まずは今年度、全5クラスにおける学生のドロップアウト数について。電子情報学科が2クラス、デジタル家電科が2クラス、研究科が1クラスの全5クラス中の3クラスが、4月から今日まで、ドロップアウトの学生数がゼロである。3月の年度末には、この数値で結果が出せ

そうだ。

次に、昨年からの継承事項でもある就職内定状況だ。

景気状況は、昨年の震災の影響もあり、近年稀に見る最悪の局面だ。まだまだ大変に厳しい社会情勢の中、該当の全3クラスが、目標とする年度内100%を達成できるよう頑張っている。

今年も勿論、目標とする優良企業から多数が内定をいただいた。各クラス、それぞれがあと1〜2名の未決定者を残すのみ。ゴールは目前だ！

次に、「工事担任者A I ・ D D総台種」の認定講座だ。

総務省より認可され、平成12年度から継続する認定講座も今年で12年目に入った。今年度は、電子情報学科1年生の女性2人を含む全学生40名が全員取得を目標に頑張っている。この認定講座により、ほぼ6ヶ月間の勉強で情報通信技術者としては是非とも欲しい価値ある資格が取得できるようになった。まるで、夢のような話ではないか。例年のように、3月中旬には、合格の目途が立ちそう。最後に、電子情報学科2年生の佐藤啓太君の件についてである。

国家資格である第一級陸上無線技術士に合格した。難関とされるこの資格を彼は、2年次の7月期の試験を受験し、見事に合格した。

現在、電子情報研究科に進学予定であり、次なる国家資格を目標に勉強中である。彼には、大きな期待が掛かる。是非頑張つて欲しい。

(デジデジ)

### 『連覇に向けて』

やりましたー。と昨年のかもめと同じ書き出し、今年度の体育祭は電業技術学科2年が優勝した。優勝旗は電気各科の持ち回りみたいになってきた。

なにせ8連覇。

就職も好調。資格取得も好調。学生諸君の頑張りや成果となりそれが後輩に引き継がれ伝統となってきた。入学理由に父の母校というのも増えてきた。

一昨年4月に175名が入学、昨年は179名。今年度もそれに続けと入学願書がすでにたくさん出されている。これからもずっと自慢できる電気各科でいられるようみなさん応援よろしく。

(デンシエンマン2)



平成二三年度

# 母校のおもなできごと

震災や原発事故の話題が切れる事がなかった平成23年度、事故を振り返るだけでなく、復興ともに変化を目にすることが増えた1年でした。社会が変化していくなか、工学院でも、更なる発展を求め、日々の活動を進めております。今年ほどのような動きがあったか、紹介してみましよう。



- 4月7日(木) 昼間部・オリエンテーション／電波学園合同入学式
- 4月8日(金) 始業式
- 夜間部・オリエンテーション
- 4月28日(木) 第1回県人会
- 5月13日(金) 第1回・企業説明会
- 5月21日(土) 東海地区保護者会(卒業クラス)
- 5月22日(日) 工事担任者試験
- 6月4日(土) 第22回堀川まつり宮の渡し公園でのイベント支援(映像・音響分野)
- 6月5日(日) 第二種電気工事士筆記試験

6月5日(日) 第10回あつたさまさままつり 熱田サテライトスタジオ(映像・音響分野)



電波学園合同入学式

- 6月5日(日) 堀川まつりチラシ採用 加藤勇亮(CGクリエイティブ科3年)
- 6月12日(日) 映像音響処理技術者資格認定試験
- 6月12日(日) 寮对抗球技大会 例年、寮生の親睦を図るために開かれるボーリング大会
- 優勝 前泊郁弥(明治寮)
- 準優勝 金田真(明治寮)
- 第3位 森祐希(明治寮北館)



寮对抗球技大会

- 6月18日(土) 校友会支部長総会
- 6月26日(日) CAD利用技術者試験
- 6月26日(日) 特別情報処理技術者試験、応用情報技術者試験、データベーススペシャリスト試験、情報セキュリティスペシャリスト試験
- 6月26日(日) 色彩検定
- 7月2日(土) 7月18日(月) 教育懇談会／県人会担当教員が各地区へ赴き保護者との面談を行った。
- 7/2 富山・高山、7/3 長浜
- 7/9 石垣・宮古・尾鷲・金沢
- 7/10 那覇・福井、7/16 長野
- 7/17 静岡・飯田、7/18 浜松・松本
- 7月3日(日) サウンドレコーディング技術認定試験

- 7月10日(日) 特別情報処理技術者試験 基本情報技術者試験、ITパスポート試験
- 7月10日(日) CG-ARTS検定
- 7月12日(火) 13日(水) 第一級陸上無線技術士試験
- 7月14日(木) 15日(金) 第二級陸上無線技術士試験
- 7月17日(日) 3次元CAD利用技術者試験
- 7月4日(月) 新学生会役員任命  
会長・小西寛(ゲームサイエンス学科)  
副会長・中川絢斗(デジタル家電科)  
書記・金武晃平(電子情報学科)  
会計・山崎尊大(情報総合学科)
- 7月23日(土) 24日(日) 第二種電気工事士 技能試験
- 7月25日(月) 29日(金) 前期末試験
- 7月29日(金) 昼間部・夜間部終業(夏期休暇)
- 8月24日(火) 夜間部始業
- 8月29日(月) 9月10日(土) 第一級陸上特殊無線技士講習会 36名 取得
- 9月3日(土) 第一種・第二種電気主任技術者試験(二次試験)
- 9月4日(日) 第三種電気主任技術者試験

(9)



本校で行われた初級者大会

9月4日(日) 第26回マイクロマウス中部地区初級者大会(於:本校)  
 ○マイクロマウスクラシック競技  
 優勝:澤田洋介(ロボティクス創造学科4年)・準優勝:水谷優希(ロボティクス創造学科4年)  
 ○支部サーキット競技  
 準優勝:水谷優希(ロボティクス創造学科4年)・3位:澤田洋介(ロボティクス創造学科4年)  
 ○ロボスパ rint競技(一般の部)  
 優勝:佐藤真一(ロボティクス創造学科2年)  
 ○ロボスパ rint競技(ワンメーカーの部)  
 優勝:澤田洋介(ロボティクス創造学科4年)・3位:佐藤真一(ロボティクス創造学科2年)

10月22日(土)〜23日(日)  
 第41回名学祭 テーマ「あい」



体育祭:毎年恒例の縄跳び

9月11日(日) AV情報家電・生活家電エンジニア・アドバイザー試験  
 9月12日(月) 昼間部始業  
 9月16日(土)〜17日(日) 東京ゲームショウ見学  
 10月2日(日) 第一種電気工事士筆記試験  
 10月6日(木) CADアドミニストレーター認定試験  
 10月8日(土) 東海地区保護者会(進級クラス)  
 10月16日(日) 情報処理技術者試験  
 10月18日(火) 体育祭/今年も体育祭日和。鶴舞競技場に学生達の歓声が響きわたった。



名学祭「あい」

10月22日(土) バンダイナムコゲームス特別講演会「家庭用ゲームプロデュースの現場」  
 10月23日(日) 第30回マイクロマウス中部地区大会(於:本校)  
 ○ロボスパ rint競技(一般の部)  
 優勝:佐藤真一(ロボティクス創造学科2年)・準優勝:佐藤祐太(ロボティクス創造学科2年)  
 ○ロボスパ rint競技(ワンメーカーの部)  
 優勝:佐藤真一(ロボティクス創造学科2年)

11月6日(日) 第26回全日本学生マイクロマウス大会(於:芝浦工業大学)  
 11月20日(日) マイクロマウス2011

11月27日(日) 第一種・二種電気主任技術者試験(二次試験)

12月4日(日) 第一種電気工事士技能試験  
 12月15日(木) 60周年記念式典  
 12月22日(木) 昼間部・夜間部終業(冬期休暇)

12月23日(金) 第20回全国専門学校ロボットの競技会(於:東京)  
 ○有線型ロボット対戦競技 優勝:松坂勇太、大河内良之(ロボティクス創造学科3年)

○優秀ヒューマノイド賞:丹羽智也、渥美透(ロボティクス創造学科4年)

1月11日(火) 昼間部・夜間部始業  
 1月13日(金) 第2回県人会  
 1月17日(火) 18日(水) 第一級陸上無線技術士試験  
 1月19日(木) 20日(金) 第二級陸上無線技術士試験  
 1月27日(金) 2月2日(木) 卒業試験

2月8日(水)〜14日(火) 進級試験  
 2月23日(木)〜24日(金) GCS2  
 011出展・発表(ゲーム・CG分野)

3月8日(木) 茶話会  
 3月9日(金) 卒業式

# 電波学園は60歳の誕生日を迎えました

電波学園は、昭和27年の創立から、平成24年2月で60周年を迎えました。人に例えれば還暦を迎えたことになりました。

新たなスタート。その特別な節目に、様々なプロジェクトが展開されました。電波学園の歴史は、そのまま名古屋工学院専門学校の歴史でもあります。

ここでは、60周年記念事業の一部を紹介し、工学院60年の歩みを振り返ります。

## 「クリーンマップ活動」

毎週金曜日は、校外清掃の日。地域・社会への貢献をねらいとして、各クラスが輪番で授業後に学校周辺の清掃を行っています。

今年度は、特に60周年記念事業の一つとして、地域・社会への「ありがとう」の気持ちをこめて、清掃範囲を通学路として利用している最寄りの駅周辺にまで広げました。

普段はあまり気にしていない道端のゴミ。たばこの吸い殻、空き缶、ペットボトル、コンビニのレジ袋などを拾い集めることで「捨てない」心が養われます。これからも、街をきれいにする活動を

続けていきます。

## 「エコキャップ活動」

毎日校内で大量に出されるペットボトルのゴミ。このキャップがポリオワクチンになることは皆さんご存じですよね。キャップ800個で一人分のワクチンが買えるそうです。



ポリオは、口の中から腸内に入ったウイルスが脊髄に入ることによって引き起こされる病気で、主に手足の麻痺といった症状が現れます。

このキャンペーンは、集められたキャップを日本赤十字社に贈り、世界の子供たちにワクチンを届ける活動です。

7月22日から10月31日の期間中に

集まった数は、5千800個でした。

この活動は、今も継続しています。

## 「献血活動」

本校では毎年、社会貢献活動の一環として日本赤十字社血液事業本部が総括する「献血サポーター」に参加し、学内献血を実施しています。

今年度は、5月28日実施しました。

採決数は、193名。多くの学生・教職員のご協力を頂きました。

今後、このような社会に貢献する機会を積極的に設けていく予定です。

## 「ありがとうのタネをまこう」

「ありがとう、と言われること」という学園のスローガンのもと、私たちは、学生とともに歩み、共に将来を悩み考える基本姿勢を貫くことが大切であると考えます。

学生も教職員も、互いに心から「ありがとう」といえる関係を大切に、育てていきたいと思えます。

学園では、ありがとうの「タネ」をまくサイトを開設し、皆様からのメッセージを募集しています。

工学院のトップページにバナナが用意されていますので、そこからアクセスしてみてください。すでに多くのメッセージが寄せられています。

## 「学園創立60周年記念式典」

平成23年12月16日に中京大学文化市民会館にて電波学園創立60周年記念式典を挙行いたしました。



当日は、教職員、在校生の代表者を始め、卒業生や来賓の方々合わせて、およそ千名が見守る中、理事長式辞に始まり、卒業生代表あいさつ

在校生代表あいさつ  
教職員代表あいさつ

60周年記念事業についての発表

学園の将来構想についての発表

の順で式典は粛々と進められました。

私たちは、数多くの人に支えられながら60周年を迎えることができました。

この大きな節目を迎え、さらに心を一つにし、これからも「ありがとう」をつないでいきたいと思っています。

# 工学院60年の歩み

昭和27年 名古屋無線電信学校創立  
本科、特別科、別科設置



名古屋無線電信学校

昭和28年 名古屋高等無線電信学校に校名変更

昭和29年 通信専攻科（後の電波通信学科）設置

昭和30年 技術専攻科（後の電子工学科）設置

昭和30年 テレビ技術科（現デジタル家電科）設置

昭和32年 2号館竣工、校歌ができる

昭和34年 学校法人組織となる

昭和36年 電子工学科（現 電子情報学科）設置

昭和43年 電子計算機本科（現情報処理学科）設置

昭和44年 電業技術学科、電気工士学科、電波通信学科、電波通信研究科、電子工学研究科（現電子情報研究科）設置

名古屋電気通信工学院に

昭和48年 校名変更  
1号館竣工  
制御工学科（現ロボット科）設置

昭和50年 明治寮竣工  
電気工学科設置

昭和51年 学校教育法第82条の2に基づき専修学校（専門学校）として認可される

昭和56年 情報処理学科設置

昭和58年 第24次南極観測越冬隊で卒業生が活躍（昭和49年3月電波通信研究科卒業 棚橋敏雄さん）

昭和59年 5号館竣工  
創設者水野恒治先生が藍綬褒章を受章

平成2年 6号館竣工  
情報システム科設置

平成3年 名古屋工学院専門学校に校名変更

平成4年 音響映像学科（現映像音響科）を設置

平成7年 文部大臣告示により、本校の修業年限が2年以上の全学科の卒業生に対して「専門士」の称号が付与される

平成11年 情報工学科および電子情報科（現ゲームサイエンス学科、ゲームCG学科設置）

平成12年 アートスタジオ竣工

平成13年 電気工学研究科を設置。

平成15年 情報総合学科、マルチメディア

平成17年 情報総合学科、マルチメディア

平成19年 情報総合学科、マルチメディア

平成11年 イア科（現ゲーム総合学科）、インターネット科（現情報デザイン科）設置

平成12年 創設者 水野恒治 先生が勲四等旭日小綬章を受賞

平成13年 2号館改装

平成15年 I Tスペシャルリスト科、機械CAD設計科設置

平成17年 3号館改装

平成18年 1号館 大改修

平成19年 文部科学大臣告示により、情報合学科、マルチメディア科（現ゲーム総合学科）の卒業生に対して「高度専門士」の称号および大学院入学資格が付与される

平成20年 デジタル家電科、ロボット科設置

平成21年 小川理事長が文部科学大臣より専修学校教育功勞者として表彰される

平成22年 電子情報研究科、電子情報学科設置

平成23年 姉妹校との合同入学式はじまる（名古屋市民会館）

平成24年 ロボティクス創造学科設置

平成25年 機械工学科設置

平成26年 ゲーム総合学科、ゲームサイエンス学科ゲームCG学科、ゲーム研究科設置

平成27年 10号館改装

平成28年 電波学園創立60周年記念式典（12月15日）

平成29年 3号館改装

## 社会の出来事

昭和28年 NHKが日本初のテレビ本放送開始

昭和29年 名古屋のシンボル テレビ塔完成

昭和30年 東京通信工業（ソニー）が初のトランジスタラジオ発売

昭和33年 東京タワー完成

昭和35年 カラーテレビ本放送開始

昭和39年 東海道新幹線開通

昭和44年 東京へ新大阪間

昭和45年 アポロ11号、月面に着陸

昭和52年 大阪で日本万国博覧会開幕

昭和59年 ひまわり1号（初の静止気象衛星）の打ち上げ

昭和62年 NHKが衛星試験放送（BS1）開始

昭和63年 国鉄が民営化 新生JRスタート

昭和63年 瀬戸大橋開通

平成元年 ベルリンの壁崩壊

平成7年 「ウインドウズ95 日本語版」発売

平成17年 愛・地球博開幕

平成22年 小惑星探査機「はやぶさ」地球に帰還

平成23年 アナログテレビ放送終了 地上デジタル放送へ移行

## 『校友会三重支部便り』

校友会三重支部長 瀬野 喜久

はじめに、昨年3月の東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

さて、この度、長年の校友会への貢献により功労賞を授与されました三重支部瀬崎雄司氏にこの場をお借りして感謝申し上げます。本当にお疲れ様でした。



支部長総会で、会長から功労賞を授与された瀬崎 雄司氏

ここで、過去の三重支部での活動について少し報告させていただきます。三重支部では支部創設以来大々的なイベントを開催した事は無く地道な活動を行なってきたところですが、遡るこ

と6年前、私自身が支部会の役員として参加させて頂いた際、壮大なイベントを開催し、もつともつと卒業生達に支部会の存在を知って頂き、様々な職種で活躍している卒業生達の交流に一役かっつてみてはと提案を致しました。

役員一同の賛同を得て、イベントの準備に取り掛かる事となりました。さすがに全ての卒業生に案内文を送付するとは出来ないため、今が旬(働き盛り)である平成元年〜4年度卒業生約800名に通知を行う事とし、案内状作成、イベント内容の検討、場所の検討等の準備を行ないながら、役員たちの間では、何名くらいが参加するか予想を立てました。

私の予想では働き盛りで忙しいことも勘案し、30〜50名程度を想定していましたが、少し?年配の役員達は「最低でも1割は参加するんと違うか」と自信満々に話していました。その自信はどこから?と半信半疑ではありましたが、やはり創立間もない頃の卒業生の方々は学校に対する思い入れは非常に強いものだと改めて認識したのを今でも覚えています。

さて、結果ですが、非常に残念なものとなりました。發送枚数791枚中、欠席84名、出席4名、宛先不明80名の想定外な結果となり、イベント自体を中止する最悪の結果となりました。一割程度の参加を予想していた役員達からは、「まさ

かこんな結果になるとは・・・」と言葉無く考え込んでいた姿が印象的でした。

この残念な結果を真摯に受け止めた後、現在三重支部では年数回の支部会を不定期ながら開催し、何とか卒業生達との交流に少しでも役立てるよう、様々なアイデアを出し合い検討を重ねている状況です。(様々なアイデア募集中です)話は変わりますが、三重県といえば伊勢神宮。伊勢神宮では平成25年に20年に一度の式年遷宮(内宮、外宮の正殿を造り替える行事)を迎える準備に賑わっています。また、観光客も近年では増加傾向にあり、特に内宮周辺の「おかげ横丁」では、週末にもなると多くの観光客で活気に満ち溢れています。興味がある方はぜひお伊勢(おかげ)参りに訪れてください。

最後に、学園創立60周年を迎え誠にとてもどうもありがとうございます。ここよりお喜び申し上げます。創立以来多くの困難を乗り越え、今日の御隆盛を成し遂げられたのは、ひとえに会長、校長、先生方、各支部のご指導、ご活躍によるものと拝察致します。これからも60年の経験を生かすし、100周年、200周年と更に発展していくものと確信しています。



## 編集後記

人生には、その年齢に達した時に行う様々な祝い事がある。初宮参りから始まり、七五三、そして成人式。子供の成人式を祝い、十数年も経てば、再び自分の番が廻ってくる。還暦だ。

暦は、「子・丑・寅・卯・・・」の十二支と「甲・乙・丙・丁・・・」の十干の組合せになっており、全部で60通りある。

生まれて60年経つと、暦が一巡し、もとに還る。それを「還暦」といって、赤いちやんちゃんを着て、新たな出発や生まれ変わりお祝いをするわけだ。

このように、還暦には、私たちが思い描く言葉のイメージとは異なった「再生」と「革新」といった意味がある。

また、今年の干支である壬辰には、解積の仕方によっては「芽吹く」とこじつけることもできる。

今年、電波学園は、その還暦を迎えた。「かもめ」もこの記念すべき節目に、小さな特集を組んだ。

学園の黎明期に、立ち会った人々に思いを馳せながら記事をまとめた。振り返れば、あつという間の60年ではなかったろうか。

世代は変われども、伝統を凜と受け継いで、新たな60年が始まる。

(零式)